

治療方針が一致している山口病院だからこそ、安心して患者さまを紹介できます。

—山口病院との連携はいつ頃からですか？

父の代からお付き合いがあり、私が院長となってからはMRI・CT検査、入院、手術が必要な患者さまを紹介しています。特にMRI・CT検査では山口病院さんにも画像を読影していただくことで、二重チェックができます。重大な病気を発見した例もあり、複数の医師の目で確認することの重要さを感じています。

—昨年で50周年を迎えられたとお伺いしました。

前身の「つけ外科」の設立は昭和38年でした。父の代から心がけているのはわかりやすい説明と、患者さまの立場になって診療を行うこと。患者さまの訴えを聞き、生活背景を把握した上で日常のシーンに合わせた具体的な指導を心がけています。山口病院の院長とはこのような治療方針が一致しているので、安心して患者さまを紹介できますね。



つけ整形外科

名古屋市南区道德通3-41
TEL.052-691-6018
診療科目：整形外科、外科、リウマチ科、
リハビリテーション科

—地域医療についてメッセージをお願いします。

整形外科疾患でお年寄りを寝たきりにしないことが自分たちの使命だと考えています。当院で外来治療に力を入れるとともに山口病院さんとの連携をさらに深め、地域の方に元気に過ごしてもらえたらと思います。（院長 柘植 哲 先生）



名古屋大学附属病院分院整形外科、名古屋第一赤十字病院リハビリテーション科副部長などを経て、平成10年「つけ整形外科」院長に。日本整形外科学会専門医・スポーツ医・運動器リハビリテーション医。

今号の表紙

場所：徳川園／愛知県名古屋市

四季折々の美しい花が咲き誇る徳川園ですが、寒い時期に花開く「冬牡丹」はまさに冬の風物詩。春とはまた違う趣きの凛とした美しさです。冬牡丹の展示期間は1月2日(金)～2月22日(日)。お見逃しなく。



理念 家族を想う気持ちを大切にしたい

基本方針

1. 患者さま本位の医療

…患者さまに対して家族や大切な人を想う気持ちを持って接するよう心がけます。

2. 地域への貢献

…24時間体制で地域住民に対して安心できる医療を提供できるよう努力します。

3. 向上心と信頼関係

…私たち職員は、常に向上心を持ち、お互いに尊敬し、信頼できる関係でありたいと思います。

■ 診療科目

一般診療 整形外科、内科、外科、消化器科、脳神経外科、リウマチ科、リハビリテーション科、皮膚泌尿器科、肛門科、放射線科、麻酔科
特殊診療 CPAP（睡眠時無呼吸症候群治療）、AGA（男性型脱毛症）在宅酸素療法、禁煙治療、ED（勃起障害治療）

※訪問診療 病状などにより、通院が困難な方の家をお訪ねします。

■ 病床数 60床（うち地域包括ケア病床 12床）

■ 診療日

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～12:00	●	●	●	●	●	●
午後 4:00～ 6:00	●	●	●	●	●	×

休診日／日曜日・祝日・土曜日午後
※救急・ケガ等の場合はいつでも診療いたします（24時間体制）

医療法人 山和会 山口病院

〒457-0836 名古屋市南区加福本通3-28

TEL 052-611-6561 (代) FAX 052-613-0333

名鉄：「大江駅」下車、南へ150m
市バス：新瑞橋13系統（左回り）／新瑞橋14系統「港東通」下車 神宮15系統「大江駅前」下車

日本医療機能評価機構認定病院

当院では、医療の質向上の取り組みとして、財団法人日本医療機能評価機構による審査を受け、平成22年4月2日付で認定されました。



<http://www.yamaguchi-hp.jp>

ケータイ・スマートフォン
サイトもご覧ください



やまぐち

患者さまと病院をつなぐ広報誌

2014/2015 Winter

あしたの医療+介護を考える①

「地域包括ケア」の誕生で、
私たちの老後は
どう変わる？

●地域医療にクローズアップ【つけ整形外科】



「地域包括ケア」の誕生で、私たちの老後はどう変わる?

2014年4月からはじまった「地域包括ケア」。山口病院でも取り組みが始まっていますが、まだまだ一般的には知られていないこのシステムについて、竹本事務局長にわかりやすく解説していただきました。

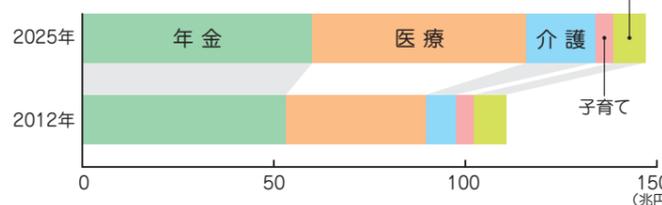
地域全体でお年寄りを見守るという考え方

「地域包括ケア」システムとは、どのような制度ですか?

団塊の世代のすべてが75歳以上を迎え、高齢者人口が過去最多になると予測される2025年に向けてスタートした新しい制度です。

日本では約8割の方が病院で亡くなっていますが、このまま25年を迎えると、病院は高齢者の入院患者であふれてしまいます。一方、高齢社会白書によれば高齢者の半数以上が「住み慣れた地域や自宅で人生の最期を迎えたい」と考えており、在宅医療のさらなる充実が求められています。そこで、患者さんの生活支援や介護サービスを提供できるよう、地域でバックアップしようという考えが「地域包括ケア」システムです。当院の場合、患者さんの

●2025年の社会保障給付費は1.5倍に



住まいから30分以内(1.5km以内)という範囲内で、「住まい、医療、介護、予防、生活支援を提供する」というシステムづくりを進めています。

一具体的にどのような取り組みをしているのですか?

「在宅療養支援病院」として地域の中心となり、介護施設、サービス付高齢者向住宅(サ高住)、特別養護老人ホーム(特養)、介護老人保健施設(老健)、訪問看護ステーション、ケアマネージャーなどときめ細やかに連携をとり、在宅看護をサポートする体制づくりを行っています。

在宅療養支援病院であるためには、24時間365日患者さんを受け入れる「二次救急指定病院」であるなど、さまざまな条件が必要となりますが、当院は55年間、地域に寄り添う「二次救急指定病院」の実績を積んでいることから、こういった体制づくりもスムーズに整えることができました。今後はさらに訪問看護の分野にも力を入れていきたいと考えています。

地域包括ケア連携

国立病院および大学病院と密接に連携。診療所、クリニックとの連携においては、身近な医療から高度な医療まで幅広くご提供できる体制を構築しています。



地域の連携を強化し、安心して通える病院へ

一「地域包括ケア」の体制が整うことで患者さんや地域にとって、どのような良い点がありますか?

やはり患者さんの「人生の最期は、自分の住み慣れた地域や自宅で過ごしたい」という気持ちを実現できるようになることが一番だと思います。地域全体がさまざまな形で在宅の人(在宅医療・在宅看護など)をサポートしますので、今まで「自宅での介護や看取りは無理」とあきらめていたご家族にも希望が出てくるのではないのでしょうか。

一入院体制については、どのように変わりますか?

これまで当院では、救急治療を受けた患者さんが入院する「急性期病床」と、その後に治療を受ける「亜急性期病床」を用意していましたが、秋からは「亜急性期病床」を「地域包括ケア病床」に切り替え、在宅復帰の後押しをする環境を整えました。「地域包括ケア病床」は最大60日の入院期間が設けられています。

とはいえ、「地域包括ケア」への取り組みはまだ始まったばかりです。まずは地域の連携を強化していくことが第一だと思います。そして、スタッフへの教育に力を入れるとともに、訪問看護ステーションとの連携もさらに強めていきたいですね。

一名古屋市南区は特に高齢化が進んでいると聞きます。そういった意味でも、「地域包括ケア」への取り組みは重要になりそうですね。

そのとおりです。当院の取り組みがモデルケースとなって、地域ぐるみで患者さんを見守る安心の「医療+介護体制」が広がっていけばいいと願っています。

一患者さんにメッセージをお願いします。

山口病院は開院以来、24時間365日休むことなく、地域密着の医療を提供してきました。2代3代にわたって通われている患者さんのご家族も少なくありません。高齢化という時代の変化に合わせながら、これからも安心して通える病院であり続けるために、新しいことも取り入れつつ医療の質を高めていこうとスタッフ一同、気を引き締めています。

在宅介護がますます重要となるということは、家族間で介護と向き合う不安も大きくなることだと思います。だからこそ、家族のケアを第一に考える「地域包括ケア」システムへの取り組みは、すべての人にとって大切なこと。病院での役割もさらに大きくなると感じました。

医療法人 山和会 山口病院
事務局長 竹本 康敏

Profile

1977年入職以来、医療事務を担当。04年に事務局長となる。過去にとらわれることなく、つねに時代の変化に即した医療体制を整えてきた。



私とやまぐち

「スタッフの温かさに触れ、迷わず入職を決めました」

派遣スタッフとして何度か山口病院を手伝いに来た際、理事長先生や院長先生、技師長をはじめとするスタッフの温かい人柄にひかれ、昨年入職させていただきました。特に技師長の脇田先生は、放射線技師の大先輩。これまでの病院では一人で現場を任されることが多かった私にとって、しっかりした上司の存在は大きく、技術面をはじめ勉強になることがたくさんあります。また、山口病院の看護師さんは、患者さんのポジショニングなどレントゲン検査の知識も豊富。こちらが忙しいときは必ずフォローに回ってくださり、その頑張りを見ているとこちらまで気合いが入り、毎日楽しく

仕事ができます。山口病院には、理事長先生の代から家族ぐるみでお付き合いのある患者さんがたくさん来院されます。私もこの関係性をこわすことなく、受け継いでいけるようなスタッフになりたいと思います。

Profile

放射線技師 中島 光啓
岐阜医療技術短期大学出身。他病院を経て山口病院へ2013年8月入職。放射線技師としての経験は15年。「患者さんに優しいレントゲン」を目標に日々勉強中。

